

今年の若一王子神社のお祭りは暑かったですね。去年の稚児行列は大雨で子どもの化粧が落ちてましたけど、今年は大汗で化粧が落ちてましたね。みんなしっかり歩いて、ご褒美のオモチャ買ってもらったかな(^^)/

発行元：大町デリバリーサービス松尾新聞店

発行枚数：2600部

発行日：不定期 宅配されています信濃毎日新聞・朝日新聞・毎日新聞・産経新聞といっしょにお届けしております。ご意見ご感想お待ちしております！

大町巡拝の旅 『仁科三十三番札所めぐり ⑨』

第9回目となりました『仁科三十三番札所めぐり』、十四番札所の福寿堂、十三番札所の三橋堂、十二番札所の海岳院の紹介。

<十四番札所 福寿堂 ふくじゅどう>



『 父母の 深きめぐみを 誰もみな
くみて知るらん 森の池水 』

木崎湖と呼ぶようになったのは明治以来との事。それまでは海の口の池とか森の池と呼ばれる湖でした。湖の西南部に半島状に延びる湖岸段丘があり、はるか縄文時代から平安時代にかけて人が暮らしていたそうです。後に仁科氏がこの地を城として重用すること多年に及びました。この城が廃止されたのは、大阪夏の陣が終わったすぐ後に施行された一国一城令によってです。以前は森集落のほぼ中央にあったそうですが、近年集落の南に新築移転されました。昔の記録には観音堂と記されていましたが、現在の本尊は阿弥陀如来坐像です、何かの事情で変えられたと思われますが、詳しい理由はわかっていないとの事。福寿堂にはおそらく大工さんたちが信仰し、奉祀したとみられる聖徳太子像や、聖観音、地藏菩薩、不動明王像が祀られています。

<十三番札所 三橋堂 さんきょうどう>

『 彼の岸に 至る願いも 三の橋
渡す御法の 道を訪ねて 』

仁科三湖の水を集めた農具川は、木崎湖南端から流れ出て木崎集落の東の端を山に沿って南流していきます。古くからこのあたりに農具川から分水する、三口に分かれた水門が設けられており、その下流には三連の橋がかけていた。この橋を通る人の安全や用水の恵みを祈って橋のたもとに建てられた堂が三橋堂だと言われています。現在も国道沿いに面してひっそりと残っております。この堂にはもとの木崎村にあった十王堂の像、如意輪観音坐像、大姥尊、弘法大師、閻魔大王像などがある。三橋堂のすぐ東の尾根先には、キツネ塚と呼ばれる三基の古墳があり、おそらく大町市内ではもっとも古い時期の古墳のひとつとみられているし、集落西方の山麓には朝鮮半島からの渡来人の遺跡が数基現存しています。



<十二番札所 海岳院 かいがくいん>

『 海山の 遠き境も ひとすじに
願えばちかき 法のみちしば 』



大町市平・借馬の細い市道沿いにある。かつての「塩の道・千国街道」は、ここを通っていた。地名は、越後から信州・松本方面へ荷物を運ぶさい、馬を借りたことが由来という。海岳院は大沢寺の末寺であったが、廃仏毀釈により廃寺となり現在は堂として残っている。本尊は阿弥陀如来像。詠歌の中にみえる磯の禅尼の墓と称する墓碑は、海岳院の東方の墓地の一角にあり、尼の戒名と文治五年十一月の享年月が刻まれている。磯の禅尼は静御前の母という人だが、江戸時代後期に、静御前仁科地方来訪の話を作成した某僧侶がり、この墓碑もその話にかかわる後世の偽作であるとされています。

参考資料『仁科三十三番札所めぐり』篠崎健一郎著

<若一王子祭り 夏の思い出アルバム>



今年の祭りは
とにかく暑かっ
たですね(^^;)
去年は私も子
どもと参加し
ましたが大雨
でした(^^)



暑いよ(-_-;)
でも終われ
ばオモチャ
が…(^^)

大町駅前で流鏝馬を
見てたら馬に足を踏まれた
方が…痛そうでした(^o^)



川村二郎の食歳時期

<新井製作所の俎板(またいた)> 昔から俎板には、柳の木が一番とされてきた。包丁の刃の当たりが柔らかく、包丁との相性がよくて、なかなか減らないからである。 昨今はしかし、プラスチック製に押され、柳の俎板を見ることが少なくなった。一流の寿司屋でも、乳白色のプラスチック製を使っている。情緒に欠けること、はなはだしい。 訳を聞くと、「いや本当は柳の木の俎板を使いたいんですけど、保健所が『木の俎板は不潔になりやすい。清潔なプラスチックを使え』って、うるさいんですよ。うちのように毎日、熱湯をかけてたわしでゴシゴシやってりゃあ、まったく問題ないはずなんですけどね」という話である。 なんのことはない。保健所が、日本の食文化の伝統を壊していることになる。 それでも柳の俎板を作り続けているところがある。東京・あきる野市の新井製作所の新井昭一さん。二〇一一年二月に七十歳になる。「柳にもいろいろ種類がありましてね。俎板にするのはバッコ柳といって、葉の形もその辺の柳とは違うんです。直径が五、六十センチはないと、できないんですよ」 近ごろはそういう柳が手に入りにくく、東北や北海道から取り寄せている。 買っていくのは、料理の好きな女性たちだそうだ。「そういう方がお子さんやお孫さんに、柳の俎板の良さを伝えていって下さるんでしょうね」

(有) 大町デリバリーサービス松尾新聞店

大町市大町2675-7 (ハローワーク大町すぐ近く!)

電話: フリーダイヤル 0120-030553

FAX 0261-22-8402

HPアドレス : <http://shimbun.web.fc2.com/>

